

アンケートのまとめ

講演「安全とは何か、 KYトレーニングに学ぶ」について

- ・「気をつけて」では何も伝わらない。「～だから～に気をつけて」と具体的に、親が子を見るように伝えることが大切であるということ。
- ・何をどうするかという対策をしっかりたてなければいけない感じた。
- ・相手に勝手に通じていると思う勘違いをしないようにしなければと思った。
- ・「気をつけて」では何も始まらないという事。
- ・ポイントを決めて作業者と話を一緒に考える。
- ・あら探し、指摘のみでは駄目。
- ・作業標準を用意し、問いかけパトロールが大切。
- ・心の扉を開いてもらう。
- ・指摘の仕方は、3つ褒めてから、1つ叱ること。
- ・人の意見をくささせないで、聞くこと。ほめた上で、指摘する。ほめて、心を開いた状態にしてから、話しをする。当たり前のことだが、なるほどと感心した。

- ・「仲間の身も自分が守る。」ことが大切であると感じた。そのためには、相手のことを考える「心遣い」が大切であると感じた。KYとは別に、印象的な言葉は、「3回褒めてから1回指摘する」。研修の中でこれが一番心に残ったことで、なるほどと感じました。人とのつきあいでは、この言葉が一番大切であると感じた。
- ・パトロールの在り方について、「指摘だけではダメ！対策を一緒に考えること」が印象的であった。我々のパトロールでは、できていないと思いました。職場を黙って訪れ、あら探しをし、後から上司から指摘される。これからは、提案型のパトロールを心がけたい。
- ・やる気が大切（プロ意識を持ってもっとやる気を出さないと駄目）。誉めてやるパトロールをする。（誉めてやると人間は心を開く）。「気をつけて」では何もならない
- ・グループワークが今までにない内容で印象に残りました。
- ・今回の講演は前回と同様に「安全」というテーマですが、また別の視点に立ったお話で身近に感じました。特に印象に残ったのは、具体的にということ。「気をつけて」では何に気を



付けなければならないのかわからない。「○○しなさい」ではなぜしなければならないのか判らない。KYトレーニングでも、自分自信、曖昧な表現が実に多いことに気付きました。

- 安全通路の概念が当社と大きく違っていたこと。
- 自分の身は、自分で守る、仲間の安全も考える、会社(組織)が安全の上で成り立つこと。
- 法令によって保護されていてもそれが完全では無く、最終的には自分の身は自分で守らなければならないということ。指示は具体的に出さないと受けた側との齟齬が生じるということを感じ知った。
- 私生活や仕事の中でも言葉足らずなために遠回りしたケースは幾つも経験しています。しかし、こと安全については遠回りややり直しはありません。正確に意志を伝えることの大切さを感じました。
- 相手に理解させるという事をいわれていましたが、これがなかなか難しいことで自分が理解していないと理解させられないと思いました。具体的に指示をせよというのはその仕事にたけていないと出来ないし又職場の全員がそういった方向で相互注意のなんたるかをベクトルを合わせやることが大事であると思います。あと安全に対しての伝承もいわれていましたが、技術の伝承だけを考えてもいけないと思いました。
- 災害が発生したときの安全担当者の苦悩を伺い知ることができた。特に重大災害が起こった際の家族への対応、職場のムードの低下、各担当者に対するプレッシャーなど、色々な影響の大変さを考えると、「災害は本当に誰も得をしないしみんなが損をして悲しい思いをする。」ということが印象に残った。また、「青信号で道を渡っていても車にひかれて死んでしまえばそれでおしまい。」の話、身近で単純な例だけどまさにその通りだと思った。
- 単純に「気をつけて」では意志が通じないという事例を聞いて、日常の業務でも同じことであり、重要なことと思いました。

- 前回と同様に「自分の身は自分で守る」が安全の基本であることを改めて痛感しました。例えば、いくら法規が歩行者優先でも轢かれてしまっってはもともとも無い。自分の身は自分で守ることが大切ということが印象に残っています。また、最後の方に話されていた「人は皆大事で一人として死んでいい人なんていないのだ」というところも強く印象に残っています。
- 今まで災害は、個人の不注意が主とと思っていましたが、職場の雰囲気(規律)による影響があるとは想像もしていなかったので非常に有意義であった。

KYトレーニング4R法をみなさんの職場でどのように活用されますか

- 日常の何気ない行動のなかにも災害の種が潜んでいないかどうか、一度振り返ってみようと思いました。
- 現場の朝礼で短時間で実行できる、「SKYT」や「一人KY」を担当する現場に推進していきたいと思っています。
- テストセンターの作業は、非定常作業が多く、また客先の立会があるため危険の予知は重要です。テスト前KYは以前から実施していましたが、より具体的な表現で危険を確認することが重要であると思いました。今後は、テスト前のKYでもより具体的な表現で危険予知を行いたいと思いました。
- 今回実習した事で、部署内で見落としていた細かな点に気がつくようになった。部署内では未だ2Sの徹底が甘いので、危険点などを例に出しながら改善を図るようにしていきたい。
- 当たり前の日常の中にも危険は潜んでいることを認識し、もう一度"当たり前"を見直す必要性を痛感しました。
- 所属する部署内で、週ミーティングの時間にKYT4ラウンド法をやってみます。私の職場で

はほとんど経験のない人が多いので1ラウンドを重点的にやって、危険に対する感度を磨いてもらおうと思います。

- いわゆる事務部門ではありますが、仕事を行う上で作業の段取りだけでなく安全面も考慮すべく、特に1Rを参考にしていきます。
- KYTの基礎を実習し、大まかな流れは判ったのですが、これを職場にもち帰りKYTのリーダーとして活用できるレベルには無いと思います。また、職場としてもKYTに縁の無い職場である為、本社の事務部門にどのように活用すべきか考えてみます。
- 危険要因と現象の把握、危険ポイントの追求はKYチェックならずとも本質をとらえるという意味で良いトレーニングとなりました。現場の朝礼の最後に安全目標の唱和があります。今度現場の人に「こんなの知ってる？」と話しをしてみようと思います。
- KYTはいままで幾度となくやってきましたが、なかなかうまく続いていません。こういった人を巻き込んで、職場ぐるみあるいは会社ぐるみでやらないと続かないし又長期的にやれる方法をみんなで考え全員参加できるよう取り組みたい。
- 現地工事における、業者への日々の安全指導に活用したい。業者に対する具体的なKY手法の指導や、自らが簡易KYを行いその作業における安全のポイントを指摘改善することを用いたい。



- KYTをもっと簡素化した手法で、整理・整頓をするためにどのようにすれば良いかということを実施したい。
- KYTはこれから業務をはじめる前に自らができる範囲内で即改善することが必要であるので、身の回りで気づいたことがあれば、できる範囲での災害防衛策を考え、即実行を心がけたい。
- 設備稼働しながら改造等行うことが多いので計画、設計業務に活用したい。

「なくしたものはもどらない、自らが災害を出さない決意が大切」とありましたが、講演を聞いたみなさんの決意は

- 日常生活においても、また非日常的な行動を起こす時は特に災害は隣り合わせという意識をもっていきたい。
- 現場代理人という職務において、安全というのは最も重要であり、朝礼等で安全意識を高める為に、「本日の作業で危険だと感じる作業については保護具を身につけ、一人作業を行わない」等の発言をしていましたが、兼松さんの講義を聴き反省する点が多々ありました。対策がなく人まかせであり、型にはまった事を並べ言っているだけでした。今後は熟練した作業員にもマンネリにならぬよう、気配りをしていこうと思う。
- 3回はめて1回指摘。ゼロ災で行こう！ヨシ!!
- 技術研究所内の無事故無災害が目標ですが、最低限、自分の部署内は今後とも無事故無災害であるように努めたい。
- 事務所では災害というものの認識が薄くなりがちですが、今後は"安全"の意味を掘り下げて常に意識出来るようにしたい。
- 危険に対する感度を高めるように努力します。
- 安全を自己で確保する。
- 歩行者優先でも死んではなにもならない。自分

が優先という意識は持たず、安全確認する。

- 何度もお話の中に出ていた「青信号を渡る際にも、左右安全確認を行う」など、仕事上だけでなく常に危険要素を意識する。
- まず自分の職場と家族から災害を出さない。その為には安全に対する意識の低い職場で労対委員である私が研修を通して安全の意識を高めることが重要であると思いました。
- 日常は気を付けていることも、間違いやミスをした途端に忘れてしまいやすい。よってミスをした時ほど焦らないことに気を付けます。
- 研修会に参加して、あらためて安全の事を考えさせられています。今事務所で仕事をしていいますが、結構現場にでることの多い仕事なので自分の目についたことあるいは現場の人と話して得た情報を、自分の中に溜めずに反映させれば良いかと思います。自ら行動するといったことは何も仕事だけでは無いと思います。

- 災害は紙一重と思い何事も慎重に作業を行う。
- 注意したり指導したりすることはされる側の人間からすれば非常にうっとうしいものであり、ひとつ間違えば個人的に嫌われたりするけれど、誰かが信念を持ってやらなければ職場は変わらないし良い状態も持続しない。当たり前の事であるが、「自分の身は自分で守る、そして自分の職場からは災害を出さない」という決意が大切であり、妥協することなく常にこだわっていきたいと思う。
- 椅子を机にいれていなかったり、事務所にもたくさん危険は潜んでいることを認識しました。日頃よりちょっとした危険予知を習慣化出来るように心がけたい。
- まず、自分から災害にあわない様、勤務の内外に係わらず常にKYを心がけ気をつけ、また周りの人たちについても同様にKYについて意識していくよう進めて行きたいと考えています。

